

平成 26 年度 教員免許状更新講習・シラバス

講座番号	9	講座名	特別支援教育講座Aー広汎性発達障害・ADHD等の理解と支援					
担当講師		開催地	時間数	日程	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法
林 優子 堀江 真由美 細川 淳嗣 土田 玲子 山西 葉子		三原キャンパス	6 時間	8 月 18 日 (月)	全教諭 養護教諭	100 人 (最少開催 人数3人)	講義	筆記
到達目標		広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などの発達障害に対する医学・リハビリテーションの基本的な知識とそれに基づく適切な支援方法について理解する。						
【講座の概要】 広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）、注意欠陥移動性障害（ADHD）、学習障害児（LD）等の発達障害児に対する理解と適切な支援が教育現場に求められている。この講座では、教育現場で活用できる具体的な支援の理解を深めるために、医師、作業療法士、言語聴覚士の資格を有する教員が、発達障害児の行動や情緒、コミュニケーション、学習上の問題についての臨床研究や最新の知見を解説する。								
【講座の内容】 講義 1：発達障害の診断と治療の実際（担当：作業療法学科 小児神経科医 林 優子） 発達障害の定義と支援の概念の変遷や最新の情報をふまえて解説する。発達障害の子どもたちの状態像は、主に脳の機能の未熟性から起こる一次的な特徴と、対応や環境の不適切な影響から起こる二次障害があり、その病態を正確に捉えて対応することが重要である。教育と医療が連携して発達障害の支援をしていくために、発達障害に対する医療からの支援について、発達外来における診断の手順とリハビリテーションや薬物療法などの治療の方針について事例をあげて具体的に提示する。 講義 2：発達評価の利用の仕方（担当：コミュニケーション障害学科 言語聴覚士 堀江真由美） 学校や園での集団活動の中で、コミュニケーションや学習の困難な子どもの事例に沿って、発達評価から読み取れる原因を解説する。また、簡易に出来る評価を紹介する。子どもの個人内差を理解し、支援や指導の手がかりを提供する。 講義 3：学習障害への対応とコミュニケーション・スキルの指導 (担当：コミュニケーション障害学科 言語聴覚士 細川 淳嗣) 文字の読み書きや数の操作の困難さといった学習障害の原因とその指導についてのヒントを提供する。また、発達障害児の中には、ことばの理解やことばでの表現に困難を持つ児が多く、これがコミュニケーション・スキル向上を妨げていることもあるため、このスキル向上を目的とした理解・表現力向上のための指導について解説する。 講義 4：子どもの行動理解とその指導（担当：作業療法学科 作業療法士 土田 玲子・山西 葉子） 学校生活で発達障害を持つ児童が抱えやすい、不器用、集中力のなさ、情緒不安定、集団行動の苦手等の困難の背景について、その理解と支援の道筋について概説し、指導の考え方を解説する。								
【備考】 試験の際には講義資料及びノートの持ち込みを認めます。								

注）予備日は 8 月 25 日（月）とします。